

2025年3月期

決算説明資料

真心こめた『みち』への挑戦 ～安心と感動を～

2025年5月22日

1 企業概要

2 2025年3月期決算概要

3 2026年3月期業績予想

1

企業概要

会社名	株式会社佐藤渡辺
	WATANABE SATO CO., LTD.
創業・創立	創業：1923年（大正12年）渡辺組（個人営業）
	創立：1938年（昭和13年）株式会社渡辺組
本社所在地	東京都港区南麻布一丁目18番4号
代表者名	代表取締役社長 鎌田 修治
資本金	17億5,150万円
上場市場	東京証券取引所 スタンダード市場（証券コード：1807）
従業員数	531名（2025年3月31日現在）（連結）
支店	東北（宮城県仙台市）、関東（東京都港区）、施設工事（東京都港区）、
	中部（愛知県名古屋市）、北陸（富山県富山市）、近畿（兵庫県三田市）、
	中国（広島県広島市）、四国（香川県高松市）、九州（福岡県糟屋郡新宮町）
グループ会社	あすなろ道路（株）（北海道札幌市）、（株）弘永舗道（青森県弘前市）、
	（株）創誠（福島県石川郡石川町）、小石川建設（株）（東京都練馬区）、
	SWテクノ（株）（東京都町田市）、拓神建設（株）（神奈川県横浜市）

	渡辺組	佐藤道路
1923年（大正12年）12月	渡辺組創業（個人営業）	
1938年（昭和13年）12月	株式会社渡辺組設立	
1951年（昭和26年）11月		成和土木株式会社創立
1970年（昭和45年）7月	八千代整備工場開設（現 機械センター）	
1972年（昭和47年）10月		佐藤道路株式会社に商号変更
1992年（平成4年）5月		パーミアコンがエコマーク商品認定を取得
1993年（平成5年）9月	日本証券業協会へ株式店頭登録	
1994年（平成6年）7月	技術研究所開設	
2004年（平成16年）12月	ジャスダック証券取引市場に株式を上場	



株式会社佐藤渡辺

	佐藤渡辺
2005年（平成17年）10月	株式会社渡辺組と佐藤道路株式会社が合併し、新会社「株式会社佐藤渡辺」が誕生
2022年（令和4年）2月	佐藤工業株式会社と資本業務提携契約締結
2022年（令和4年）4月	東京証券取引所のスタンダード市場へ株式を移行
2023年（令和5年）9月	経済産業省「GXリーグ」に参画
2023年（令和5年）12月	創業100周年を迎える
2024年（令和6年）8月	サステナビリティ委員会設置

パーパス

真心こめた『みち』への挑戦 ～安心と感動を～

私たち佐藤渡辺グループが目指すのは、すべての人々が安全・安心に暮らし、未来へとつながる『みち』を提供することです。

『みち』とは、私たちが整備を担う道路だけではなく、人々の生活を支え、地域をつなぎ、経済社会の発展を支える大切な基盤となるものです。

私たちはこれからも、経営信条および社是を大切にし、道をつくる仕事に真心を込め、未知へ挑戦することで、すべての人々と社会に安心と感動を届ける存在であり続けます。そして、未来をともに築くパートナーとして、ステークホルダーの皆様とともに歩んでまいります。

経営理念

経営信条

**社会の求めるものに応えることを通し、社会に奉仕する。
このため会社はその存続発展をはかるに足る相応の利益を
挙げる。**

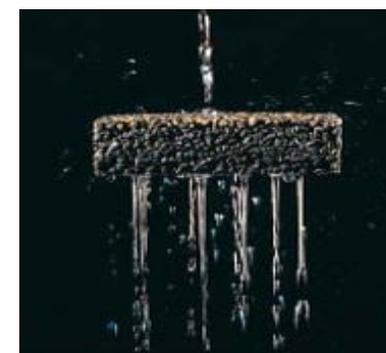
社是

誠実 創造 最高の技術

建設事業

工 事 部 門	舗装・土木工事等	公共工事	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路 ・一般道路 ・トンネル ・空港 ・港湾
		民間工事	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ガスネットワーク ・物流施設 ・都市空間事業 ・建築外構
	環境景観工事	コンクリート系舗装	<ul style="list-style-type: none"> ・パーミアコン ・サーモスカラー
		雨水貯留浸透・流出抑制工法	<ul style="list-style-type: none"> ・リ・タンスイシステム
		ウォータージェット工法	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイドロミリング
		木質系舗装	<ul style="list-style-type: none"> ・ウッドクリート ・インターウッド
		アスファルト系舗装	<ul style="list-style-type: none"> ・ポリシングペープ ・エク・シェル
		樹脂系舗装	<ul style="list-style-type: none"> ・デカラペーブ
		緑化	<ul style="list-style-type: none"> ・ザッソレス
	製 品 等 販 売 部 門	建設資材の製造および販売	
産業廃棄物処理事業		<ul style="list-style-type: none"> ・アスファルト塊 ・コンクリート塊 	

■パーミアコン



コンクリート舗装を透水性のものとするポーラスコンクリート舗装です。歩きやすい舗装（バリアフリー等）、優れた透水性（水循環の改善機能）、雨水貯留浸透機能（下水道、調整池等の施設への負担軽減）、環境負荷軽減効果（ヒートアイランド現象の抑制、雨水管理向上等）の特長があります。

■リ・タンスイシステム



「ジオプールAE-1工法」を用いた当社の雨水貯留浸透施設です。目的別に施工タイプ(貯留型、雨水利用、浸透型、浸透貯留型)を用意しており、パーミアコンとリ・タンスイシステムを組み合わせることで、より高い雨水貯留浸透機能を発揮させることが可能です。また、容器リサイクル法に基づく家庭ごみのプラスチック材を原材料として再利用しており、環境保護にも寄与しております。

■ハイドロミリング



水のかきで洗う、剥がす、削る、切るといった超高圧の水噴流を利用したウォータージェット工法は環境に優しく、繊細な作業性能と超高圧力が生み出す強靱なパワーを持った新しい加工システムです。特に、コンクリート残存構造物のコンクリート除去作業では、従来工法と比べ、衝撃によるマイクロクラック、騒音および粉塵の発生を抑制します。



売上高
(2025年3月期)

404億円

営業利益
(2025年3月期)

11億円

営業利益率
(2025年3月期)

2.9%



配当性向
(2025年3月期)

55.9%

年間配当金額
(2026年3月期予想)

80円

配当利回り
(2025年3月期)

4.9%



従業員数
(2025年3月期) (単体)

464名

男性 394名、女性 70名

平均年齢
(2025年3月期) (単体)

43.9歳

平均勤続年数
(2025年3月期) (単体)

19.1年

2

2025年3月期決算概要

事業環境

- 道路の老朽化対策と予防保全が推進され、政府による公共投資は引き続き堅調に推移。
- 民間工事は企業収益の改善に伴い設備投資需要が回復して好調。
- 受注競争の激化や原材料価格の高止まりに加え、時間外労働の上限規制への対応や労働力不足、デジタル化の遅れ、建設コストの上昇による建設投資の先送りなど、厳しい経営環境が続いた。



中期経営計画（2024～2026年度）に掲げた3つの基本方針を推進

基本方針	主な取り組み
①収益力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ補修工事の受注拡大 ・当社保有技術（環境景観工事）を活かした販路拡大 ・CO₂排出量を最大20%低減することができる中温化アスファルト混合物や環境配慮型高耐久合材等の付加価値製品の販売 ・間伐材を利用した木質系舗装の「ウッドクリート」による再資源化の推進 ・DXの推進による現場管理の効率化
②資本・財務戦略の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・株式分割の実施（2024年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で実施） ・中間配当の実施（40円実施：対前期比+40円） ・人的資本投資 建設DXを実現するためのエキスパート人材の育成（BIM/CIM担当者）
③ESG経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナビリティ委員会設置 ・「佐藤渡辺グループ人権基本方針」の策定 ・従業員エンゲージメントの向上に向けた取り組み（シニア職制度廃止、サーベイ実施） ・SBT認定取得に向けた取り組み ※SBTとは、パリ協定が求める水準と整合した、5年～15年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のイニシアティブ ・学生を対象としたインターンシップ^o、現場見学会、出前授業によるキャリア形成支援 ※実績 インターンシップ：当社関東支店管内事業所、現場見学会：山形県、東京都、徳島県、出前授業：山形県 ・CPコンクリートの社会実装に向けた研究開発の推進 ※CPコンクリートとは、コンクリート由来の産業廃棄物にCO₂を固定化させるという地域内資源循環を構築した材料の製造から、建造物などの引き渡し後もCO₂固定量や削減量の最大化を両立したコンクリート

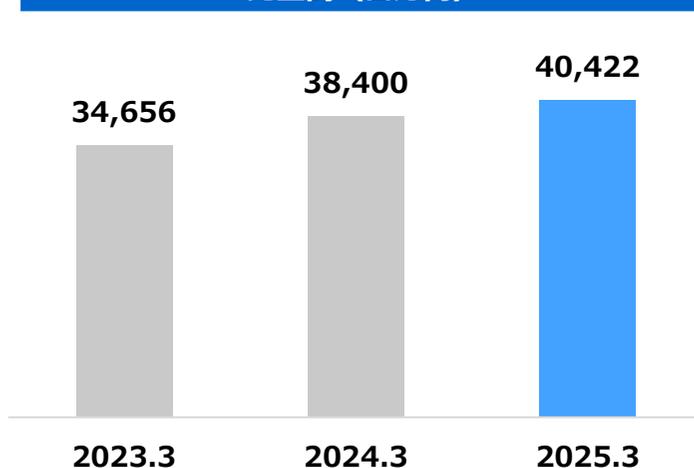
2025年3月期決算概要（連結）

- 売上高は、前期からの繰越工事が多く、それらが順調に進捗したことで期初業績予想を上回る。
- 利益面は、工事部門においては、低採算の工事があったことにより低下。製品等販売部門においては、原材料価格の高止まりが継続し、アスファルト合材の全国的な需要減少により、当社の製造数量も減少したことで低下。

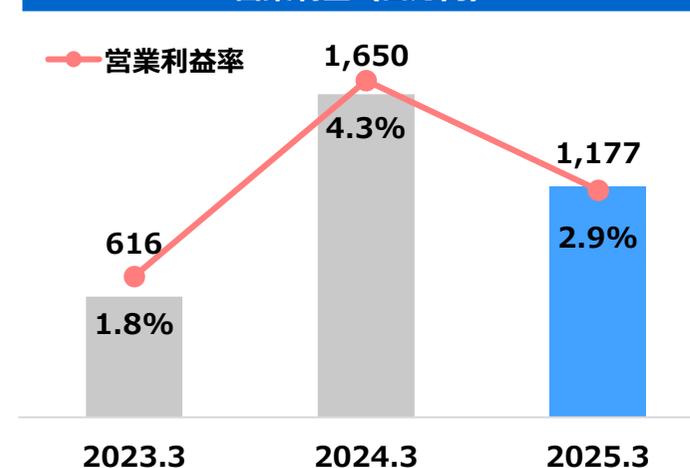
（単位：百万円）

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	対前年増減	増減率	期初業績予想	達成率
売上高	34,656	38,400	40,422	2,022	5.3%	40,000	101.1%
売上総利益	2,765	4,056	3,538	▲517	▲12.8%	—	—
売上総利益率	8.0%	10.6%	8.8%	▲1.8pt	—	—	—
販売費及び一般管理費	2,148	2,405	2,361	▲43	▲1.8%	—	—
営業利益	616	1,650	1,177	▲473	▲28.7%	1,800	65.4%
営業利益率	1.8%	4.3%	2.9%	▲1.4pt	—	—	—
経常利益	709	1,764	1,328	▲436	▲24.7%	1,850	71.8%
当期純利益	446	1,202	891	▲310	▲25.9%	1,200	74.3%

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



2025年3月期受注高・繰越高（単体）

- 前期の繰越高が多く、その工事の進捗に注力し、選別受注による営業活動の結果、受注高は対前年比で減少。
- 工事部門の中でも当社の強みである環境景観工事は、設計営業の強化などによる受注拡大に努めている。
- 次期への繰越高については、対前年比で減少しているが、過去の水準（約130億円）と比較すると高水準を維持。

【受注高】

（単位：百万円）

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	対前年増減
工事部門	31,664	37,626	27,535	▲10,091
舗装工事	26,236	31,471	22,072	▲9,398
土木工事等	5,427	6,155	5,462	▲692
製品等販売部門	4,491	4,489	4,565	75
合計	36,155	42,116	32,101	▲10,015

【繰越高】

（単位：百万円）

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	対前年増減
工事部門	14,734	21,343	15,970	▲5,372
舗装工事	12,721	18,667	13,554	▲5,113
土木工事等	2,012	2,675	2,416	▲259

【主な受注工事】

発注者	工事名	工事場所
国土交通省 関東地方整備局	R 6 国道14号亀戸小松川立体 松島地区改良舗装工事	東京都
東京港埠頭（株）	令和6年度外貿埠頭ヤード舗装 及びその他補修工事	東京都
三井住友建設（株）	中国自動車道（特定更新等） 戸河内橋他2橋床版取替工事	広島県
国土交通省 北陸地方整備局	R 6 能越道穴水道路舗装復旧工事	石川県
国土交通省 北陸地方整備局	R 6 能越道徳田大津高田舗装復旧 工事	石川県

【主な完成工事】

発注者	工事名	工事場所
東日本高速道路（株）	東北自動車道 R 5 安代～青森間舗装補修工事	青森県
東日本高速道路（株）	常磐自動車道 R 5 常磐富岡～新地間舗装補修工事	福島県
東京港埠頭（株）	令和5年度外貿埠頭ヤード舗装 及びその他補修工事	東京都
国土交通省 四国地方整備局	令和5年度横断道羽ノ浦トンネル 舗装工事	徳島県
五洋建設（株）	東北自動車道 原瀬川橋床版取替工事 の内、既設床版撤去工事	福島県

2025年3月期連結財政状態・連結キャッシュフロー

- 負債は、現在進行中の大型工事の進捗による立替資金の増加および手形サイトの短縮に伴い、短期借入金が増加したことによる。
- 純資産は、利益剰余金の増加による。
- 営業活動によるC Fは、売上債権の増加と仕入債務の減少により、対前年比で大きく減少。
- 財務活動によるC Fは、短期借入れにより、対前年比で大きく増加。
- 現金及び現金同等物の期末残高は、今後の事業運営において適正な水準を維持。

【連結財政状態】

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	対前年増減
資産合計	32,276	35,132	35,432	299
負債合計	12,922	13,991	14,005	13
有利子負債	89	40	2,800	2,759
(短期借入金)	48	40	2,800	2,759
(長期借入金)	40	—	—	—
純資産	19,354	21,140	21,426	286
自己資本比率	59.7%	59.9%	60.2%	0.3pt

【連結キャッシュフロー】

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
営業活動によるC F	187	3,483	▲3,964
投資活動によるC F	▲929	▲437	▲625
財務活動によるC F	▲455	▲412	1,997
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	—
現金及び現金同等物の増減額	▲1,197	2,820	▲2,592
現金及び現金同等物の期末残高	4,801	7,622	5,030

3

2026年3月期業績予想

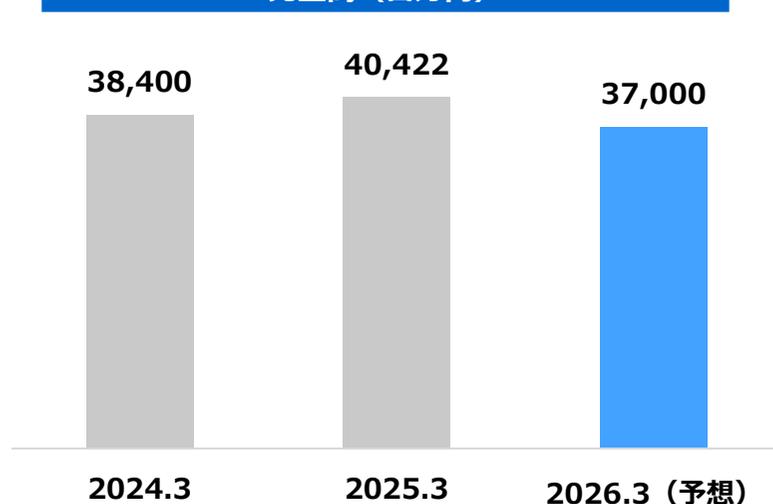
2026年3月期業績予想（連結）

- 売上高は、国土交通省関東地方整備局から、建設業法第28条第3項の規定に基づく営業停止処分を受けた影響もあり減少となる見込み。
- 営業利益は、売上高の減少の影響が見込まれるものの、工事部門においては、原価管理の徹底、労働生産性の向上、製品等販売部門においては、販売価格と製造コストの適正化により利益率の向上を目指す。

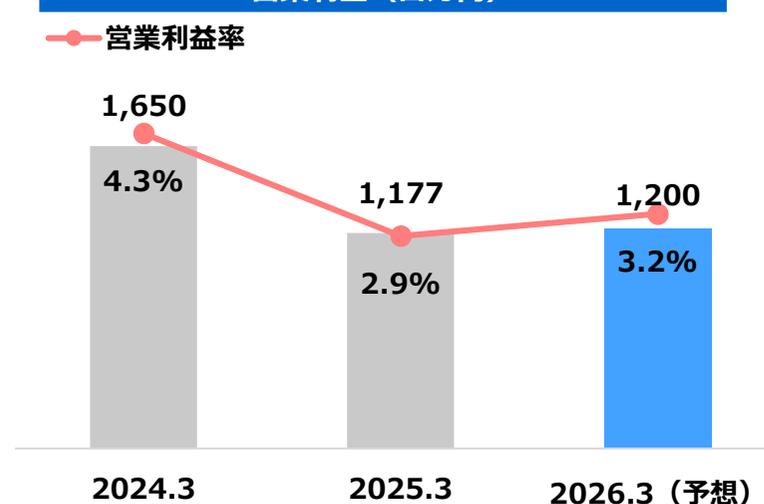
（単位：百万円）

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (予想)	対前年増減	増減率
売上高	38,400	40,422	37,000	▲3,422	▲8.5%
営業利益	1,650	1,177	1,200	22	1.9%
営業利益率	4.3%	2.9%	3.2%	0.3pt	—
経常利益	1,764	1,328	1,300	▲28	▲2.1%
当期純利益	1,202	891	850	▲41	▲4.7%

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 配当実績（2025年3月期） 80円
- 配当予想（2026年3月期） 80円
- 配当方針
 - ・2024～2026年度の3年間は年間配当80円以上を実施する。
 - ・EPSを増大させ、配当を長期安定的に継続する。
- 自己株式取得は、株式流動性や成長投資の成果等を勘案した上で検討する。

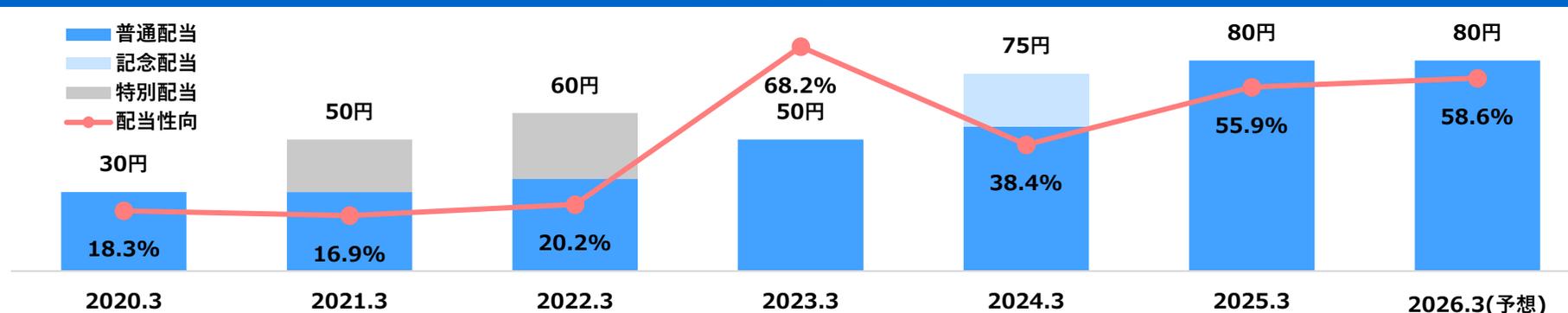
	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期 (予想)
中間配当金	－	－	－	－	－	40円	40円
期末配当金	30円	50円	60円	50円	75円	40円	40円
年間配当金	30円	50円	60円	50円	75円	80円	80円
配当性向	18.3%	16.9%	20.2%	68.2%	38.4%	55.9%	58.6%

※ 1 図表の配当金額、※ 2 の特別配当金額、※ 3 の記念配当金額は、2024年6月1日を効力発生日とした株式分割（普通株式1株につき2株）後ベースの金額を記載

※ 2 2021年3月期に20円、2022年3月期に25円の特別配当を含む

※ 3 2024年3月期に20円の創業100周年記念配当を含む

1 株当たり年間配当金の推移





株式会社佐藤渡辺

お問い合わせ先

経営企画室

TEL 03-3453-7211

FAX 03-3453-7340

URL <https://watanabesato.co.jp>

本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいており、実際の業績等は、今後の経済環境・事業環境等の変化により、異なる結果となる可能性があります。

また、本資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。